



エノキ（榎） <アサ科・エノキ属>

落葉高木。本州から沖縄の暖温帯に自生する。葉は、互生し、葉身は長さ5～9cmの卵形から卵状楕円形。葉先半分に鈍い鋸歯があり、葉の基部から長く伸びる3本の葉脈が目立つ。雌雄同株で、春に葉の展開と同時に淡黄色の細かい花を付ける。実は直径6mmほどの核果で秋に橙色から赤褐色に熟し、甘みがあり野鳥の好物。かつては、街道沿いの一里塚や村の境界などの目標樹として植えられていた。名の由来は、果実を小鳥が好んで食べるのことから「餌の木」、鋸など農機具の柄に利用されていたことから「柄の木」など諸説ある。・・・▼樹々が色付き始めた。エノキの黄葉もイチョウに劣らず美しい。美しく紅葉するためには、温度、光、湿度の3つの条件が必要。▼湯来での例会時の集合場所に、大きく枝を広げたエノキの大木がある。夏には緑陰を、野鳥には食料源。葉は、国蝶オオムラサキの幼虫の餌になる。多くの生き物を育むエノキ、支え支えられ命は繋がる。

～佐伯区湯来町 2020・10月～